

(別添)

新古賀病院 公的医療機関等2025プラン

平成30年 3月 策定

【新古賀病院の基本情報】

医療機関名：社会医療法人天神会 新古賀病院

開設主体：医療法人

所在地：福岡県久留米市天神町120番地

許可病床数：242床
(病床の種別)

一般病床：234床、感染病床8床

(病床機能別)

高度急性期、急性期

稼働病床数：
(病床の種別)

一般病床：234床、感染病床8床

(病床機能別)

高度急性期、急性期

診療科目：

内科、循環器内科、糖尿病・内分泌内科、血液内科、神経内科、呼吸器内科、
消化器内科、腎臓内科、外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、
婦人科、消化器外科、乳腺外科、形成外科、救急科、麻酔科、放射線診断科、
放射線治療科、病理診断科、臨床検査科

職員数：527名 (平成29年8月)

- ・ 医師 68名
- ・ 看護職員 283名
- ・ 専門職 118名
- ・ 事務職員 58名

【1. 現状と課題】

① 構想区域の現状

地域医療構想に於いて久留米医療圏の病床機能報告(2014年)は7,583床で必要病床数(2025年)は6,478床と1,105床(▲14.6%)の推計が公表されている。その中でも高度急性期は2,197床から849床の-1,348床(▲61.4%)急性期は2,135床から2,095床の-40床(▲1.9%)となっている。当院は高度急性期・急性期の医療を担っている。

また、構想区域内の公的医療機関等には久留米大学病院や聖マリア病院のような大規模総合病院と、それに次いで久留米総合病院、田主丸中央病院、嶋田病院等の急性期病院がある。

② 構想区域の課題

人口動態でみると少子高齢化で、人口減少はやむを得ないが、久留米医療圏以外の近接している北部の筑紫医療圏、東部の朝倉医療圏、南部の八女・筑後医療圏・有明医療圏、また、隣接県の佐賀東部、中部、大分県の日田の各医療圏の診療も補っている。

当院から回復期や慢性期への転医調整を入院中の早期から実施しており、患者本人や患者家族のニーズに沿って行っているが、時折、後方連携施設が満床で転院受入に時間を要し、それに伴い、当院の病床が空けられず患者受入れに影響が出ることも見受けられる。

今後、高齢者人口がピークを越え、人口減少が更に進んだ場合、病床数の縮減再編が必要となり病床稼働率が低い施設がどのように運営するかが課題と思慮する。

③ 自施設の現状

新入院患者数は平成28年度7,058人で月平均588人、平成29年度は6,490人で月平均590人(2月迄)であり増加傾向で、平均在院日数も平成28年度の月平均は7:1 13.0日 ICU 3.2日 HCU 5.4日で稼働している。

病床利用率は平成28年度の7:1 199.7床(感染病床8床含む) ICU 6.8床 HCU 15.9床で月平均 92.7%(病床数変更のため平均239.8床で計算)、平成29年度 7:1 208.8床(感染病床8床含む) ICU 7.1床 HCU 15.7床で月平均 95.7%(2月迄)で、重症度、医療・看護必要度の平成28年度は7:1 28.1% ICU 82.9% HCU 91.7% /月平均、平成H29年度は7:1 27.4.0% ICU 80.1% HCU 92.9% /月平均(2月迄)となり基準をクリアしている。また、在宅復帰率でも常時90%以上で基準をクリアしている。

救急車搬入は平成28年度 3,367台（うち入院1,650人 49.0%）月平均搬入台数280台、救急車以外の休日・時間外患者3,901人（うち入院433人 11.1%）、平成29年度（2月迄）救急車搬入台数 3,112台（うち入院1,558人 50.1%）月平均搬入台数283台、救急車以外の休日・時間外患者4,058人（うち入院468人 11.5%）となっており、入院の比率は上昇傾向である。また、救急車搬入の内、約86%が医療圏内からの搬入で、約14%が医療圏外からの搬入となっている。

紹介率・逆紹介率は平成28年度 紹介率 68.6% 逆紹介率 95.4%（月平均）、平成29年度 紹介率 69.5% 逆紹介率 97.0% 月平均（2月迄）といずれも上昇傾向にあり地域医療支援病院としての病診・病々の連携も広く行っている。

平成18年度から基幹型臨床研修病院で医師の基本的な技量を身につけられる施設として機能しており、初期研修修了後は後期研修に進み高度で専門性を有した医師の教育施設である。また、来年度から始まる新専門医制度では外科専門医の基幹病院及び内科専門医の基幹病院として専門医研修プログラム施設である。平成30年度医療機関群では、一定以上の医師研修の実施や診療密度を有するDPC特定病院群（旧Ⅱ群）となる。

・ 自施設の理念

人々の豊かな生涯を支援する医療

・ 基本方針等

1. 病める人中心の医療

病める人の権利を尊重し、プライバシーを遵守して、思いやりのある医療の実践に努めます。

2. 安全で高度な医療の提供

病める人の安全を確保し、いつでも受療できる体制を整え、心のこもった質の高い専門的医療の提供に努めます。

3. 医療機関との連携

地域医療機関との連携を緊密にし、生涯にわたる一貫性のある医療の提供に努めます。

4. 医療人としての研鑽

私たちは医療人として、医療技術の向上に日々努め、節度ある態度をもって病める人に対処できるように自己研鑽に努めます。

・ 自施設の診療実績のまとめ

届出入院基本料： ①一般入院基本料（7:1）
 ②特定集中治療室管理料3
 ③ハイケアユニット入院医療管理料1

患者数の動向

新入院患者数：

（単位：人）

	新入患者数	月平均人数
平成28年度	7,058	588
平成29年度	6,490	590

※平成29年度は4～2月の11カ月の数

平均在院日数：

（単位：日）

	7:1	ICU	HCU
平成28年度	13.0	3.2	5.4
平成29年度	12.9	2.8	3.2

※平成29年度は4～2月の11カ月の月平均日数

病床利用率：

（単位：床・%）

	7:1	ICU	HCU	月平均
平成28年度	199.7	6.8	15.9	92.7
平成29年度	208.8	7.1	15.7	95.7

※平成28年度は病床数変更のため平均239.8床で計算

※平成29年度は4～2月の11カ月間

※7:1病床は感染病床8床を含む

重症度・医療、看護必要度：

（単位：%）

	7:1	ICU	HCU
平成28年度	28.1	82.9	91.7
平成29年度	27.4	80.1	92.9

※平成29年度は4～2月の11カ月

救急車搬入や休日・時間外入院の患者数：

（単位：台・人・%）

	救急車				救急車以外の休日・時間外		
	搬入 台数	内入院 者数	入院 率	月平均 搬入台数	患者数	内入院 者数	入院率
平成28年度	3,367	1,496	44.4	280	3,901	433	11.1
平成29年度	3,112	1,558	50.1	283	4,058	468	11.5

※平成29年度は4～2月の11カ月の月平均数

紹介率・逆紹介率：

(単位：%)

	紹介率	逆紹介率
平成28年度	68.6	95.4
平成29年度	69.5	97.0

※平成29年度は4～2月の11カ月の月平均割合

・ 自施設の職員数

(単位：人)

	平成29年8月末
医師	68
看護職員	283
専門職	118
事務職員	58
合計	527

- ・ 自施設の特徴（4機能のうち超急性期、急性期中心）

高度急性期、急性期のみ

- ・ 自施設の担う政策医療（5疾病・5事業及び在宅医療に関する事項）

5疾病の内、がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病の4疾病を担い、在宅医療は法人の関連施設で補っている。

5事業の中では救急医療及び法人としてへき地医療（八女市立花町上辺春）として辺春診療所を開設している。

- ・ 他機関との連携（周産期医療については他の医療機関との連携を前提に対応、等）

平成22年4月より地域医療支援病院の承認を福岡県より受けたが、それ以前からも地域の医療機関との連携を密にした診療を行っている。

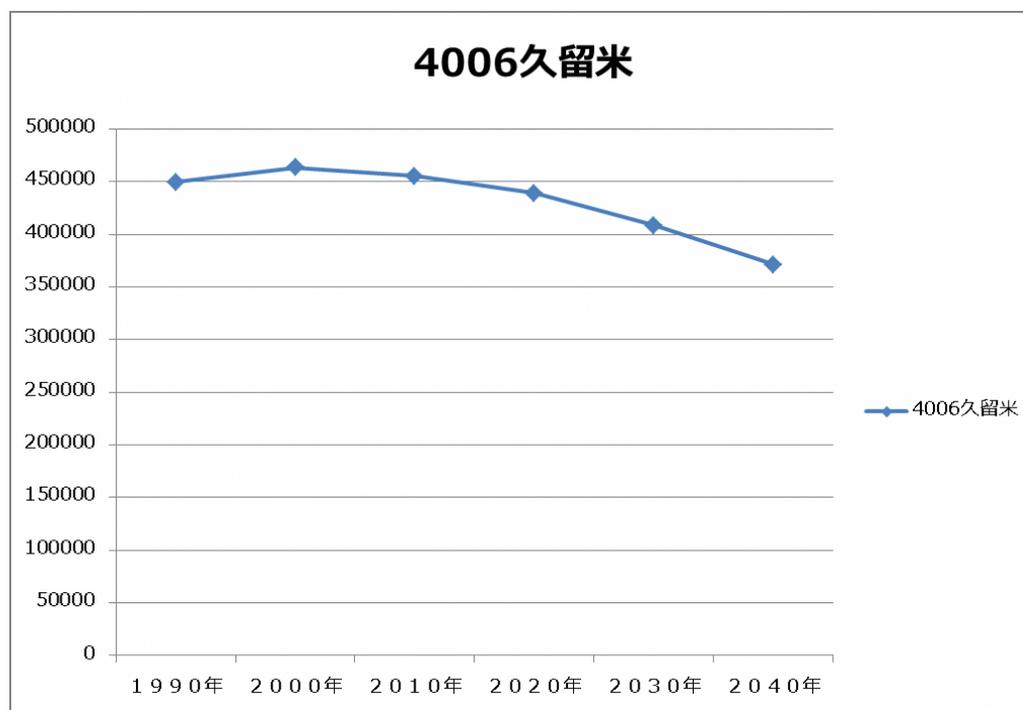
④ 自施設の課題

現状のデータ（新入院患者数、病床利用率、平均在院日数、紹介率、逆紹介率）を鑑み、今後も高度急性期、急性期病院として現有機能を維持し、最大限に活用する経営を継続して行っていきたい。

地域医療構想により、高度急性期の病床削減が想定される場合においても、7:1病床にて救急患者や術後患者が受け入れられる体制の構築を検討していく。

地域の人口及び高齢化の推移

久留米医療圏の人口推移

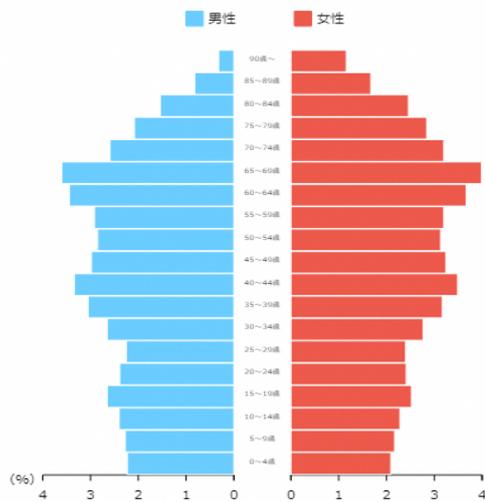


久留米医療圏の人口ピラミッドの変化

人口ピラミッド

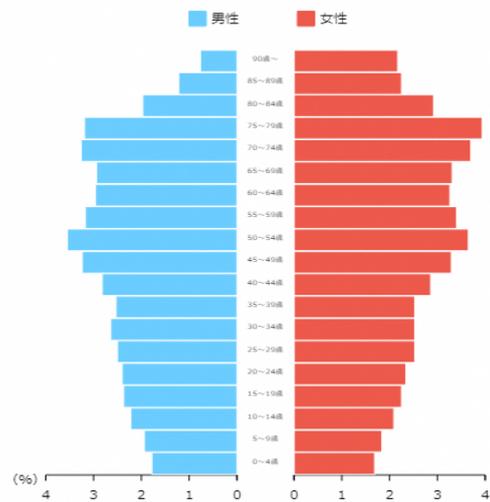
福岡県久留米市、福岡県大川市、福岡県小郡市、福岡県うきは市、福岡県大刀洗町、福岡県大木町

2015年



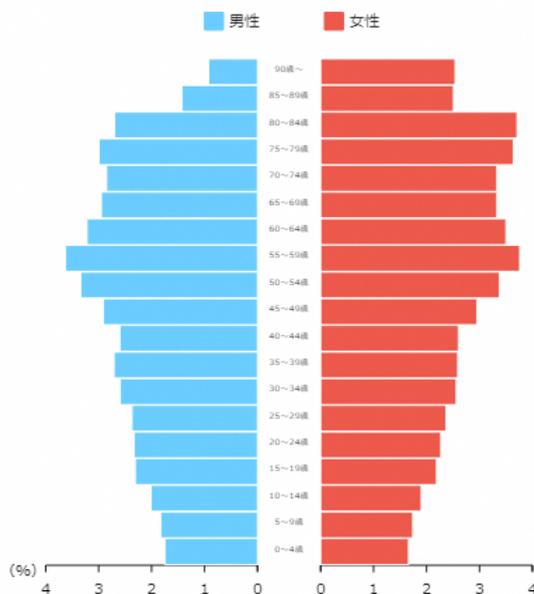
老年人口（65歳以上）：119,790人（26%）
 生産年齢人口（15歳～64歳）：267,018人（58%）
 年少人口（0歳～14歳）：61,340人（13%）

2025年



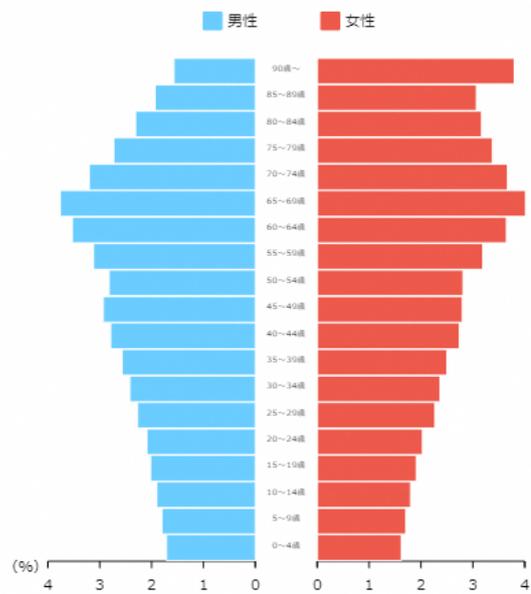
老年人口（65歳以上）：134,308人（31%）
 生産年齢人口（15歳～64歳）：241,320人（56%）
 年少人口（0歳～14歳）：49,116人（11%）

2030年

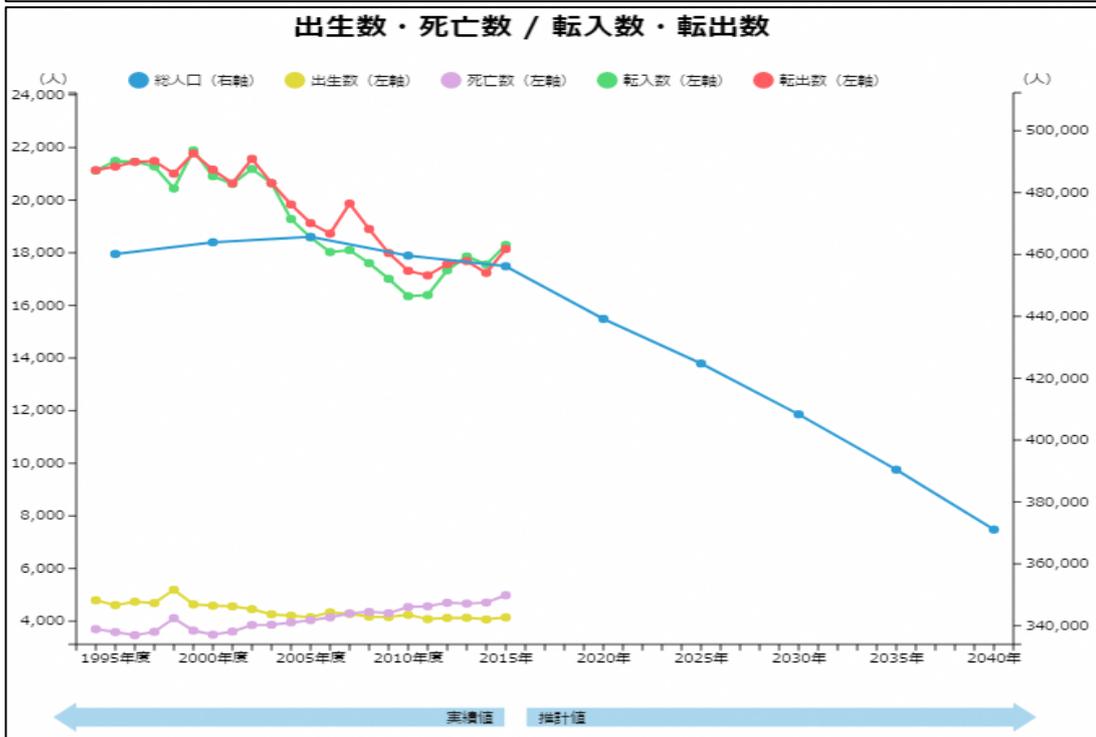
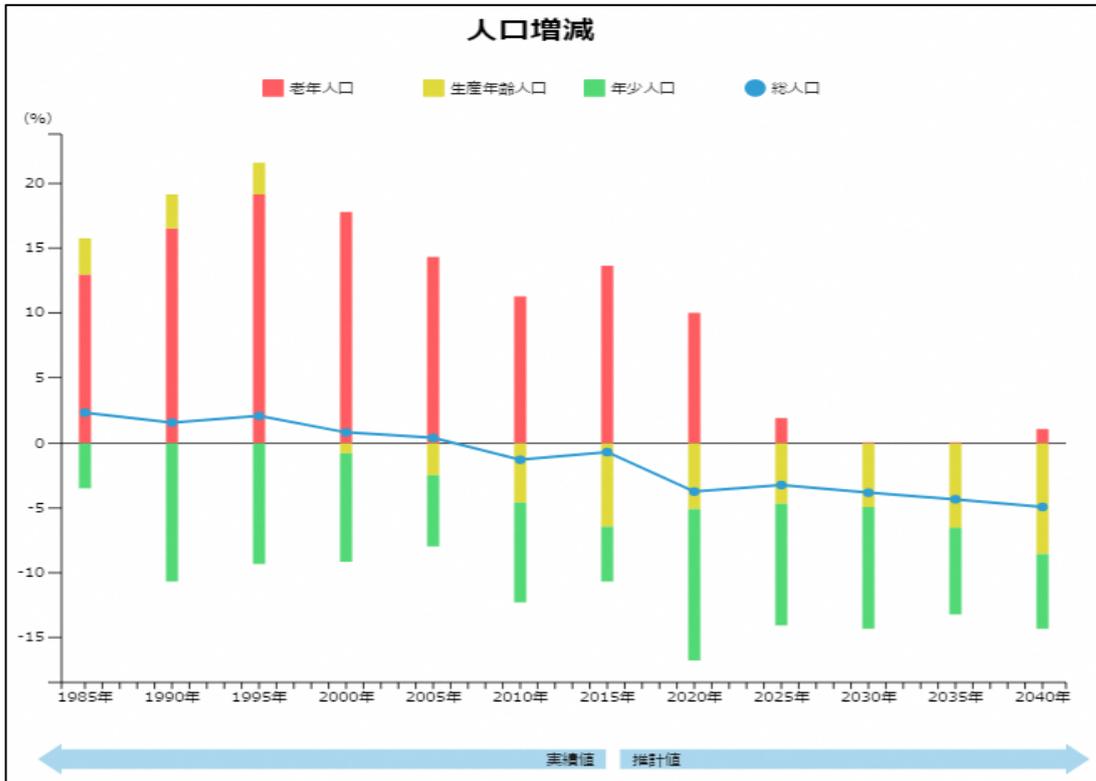


老年人口（65歳以上）：134,404人（32%）
 生産年齢人口（15歳～64歳）：229,419人（56%）
 年少人口（0歳～14歳）：44,503人（10%）

2040年



老年人口（65歳以上）：135,866人（36%）
 生産年齢人口（15歳～64歳）：196,109人（52%）
 年少人口（0歳～14歳）：39,127人（10%）



【出典】

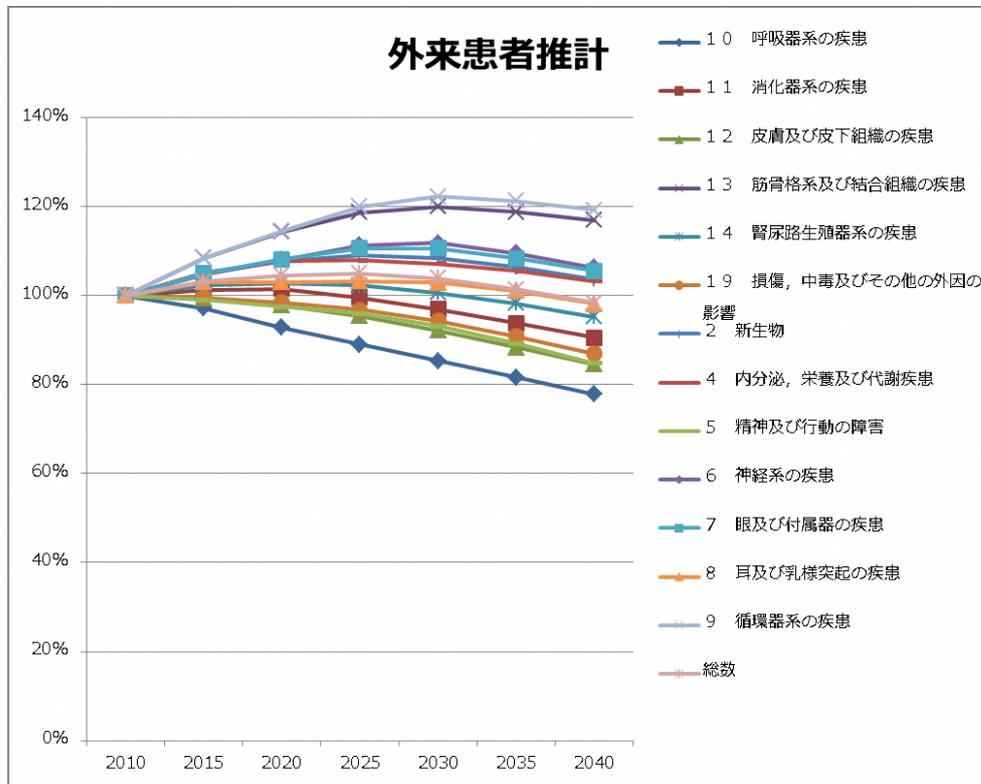
- ・ RESAS 地域経済分析システム
- ・ 総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

【注記】

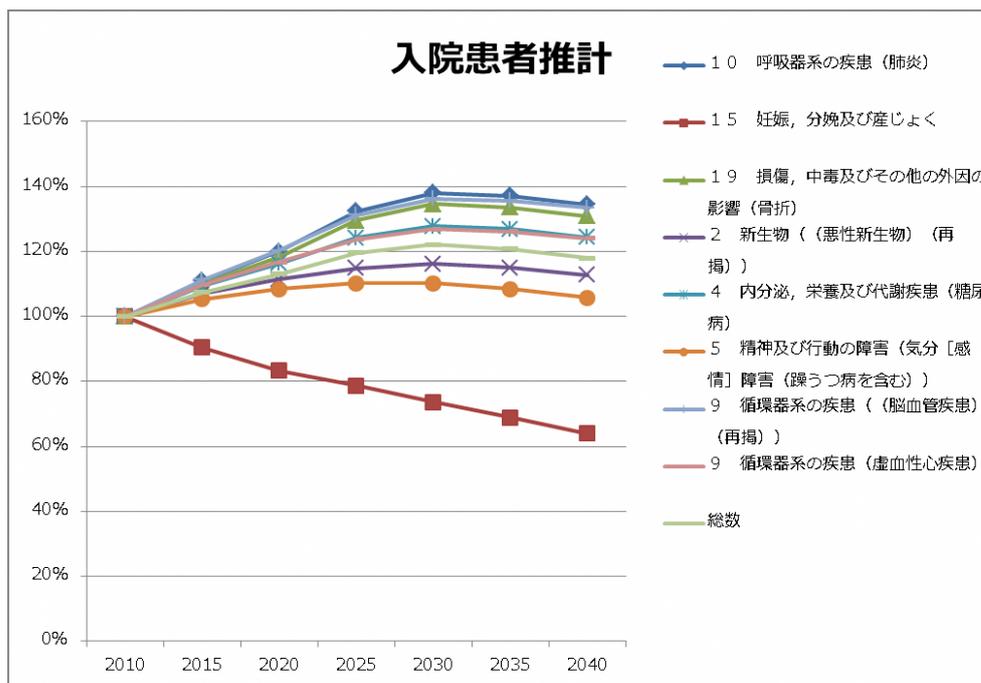
- ・ 2015年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値、2020年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（平成25年3月公表）に基づく推計値。

・ 地域の医療需要の推移

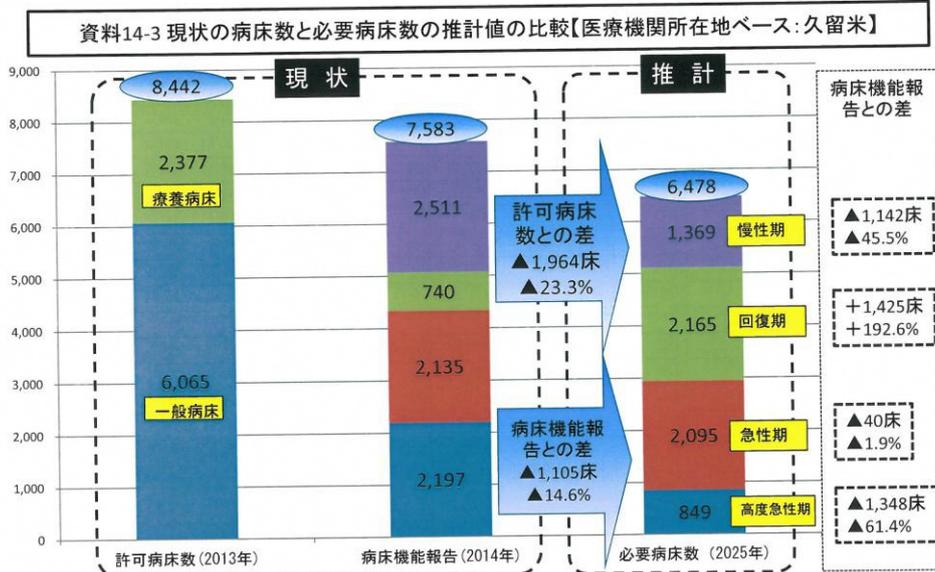
久留米医療圏の傷病別患者数の推計（外来）



久留米医療圏の傷病別患者数の推計（入院）



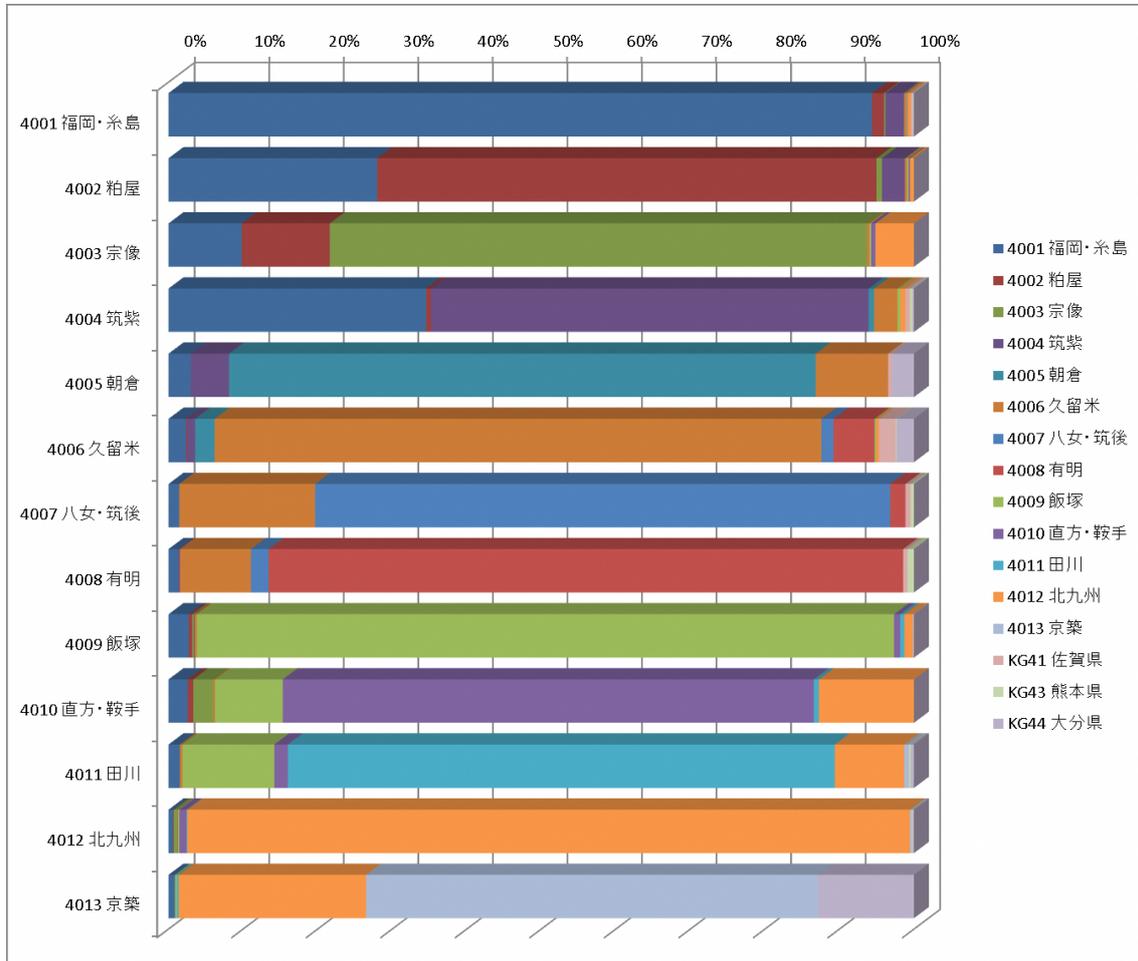
4 機能ごとの医療提供体制の特徴



※ 許可病床数(2013年)は、厚生労働省「医療施設調査」による。
 ※ 病床機能報告(2014年)については、各医療機関が定性的な基準を参考に自主的に医療機能を選択したもの。また、2014年の集計率は病院94.7%、有床診療所79.4%であり、この他にも医療機能未選択の病床781床がある。
 ※ 慢性期については、特例適用が可能な医療圏(有明、飯塚、直方・鞍手、北九州、京築)は特例適用の数値を、それ以外の医療圏はパターンBの数値を採用。

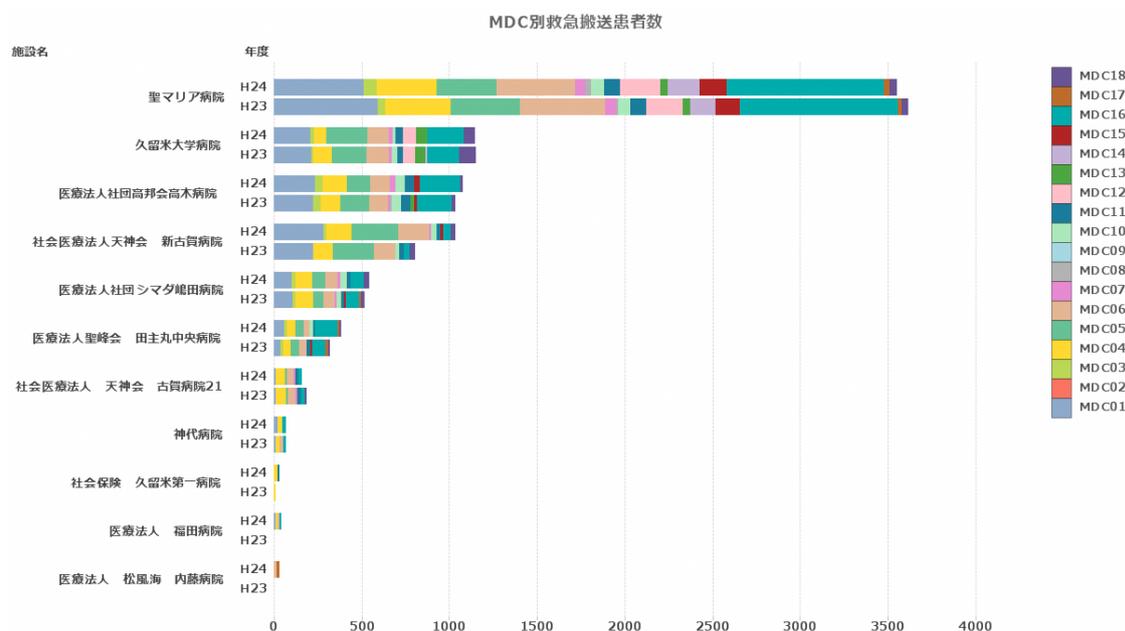
- ・ 地域の医療需給の特徴（4機能ごと／疾患ごとの地域内での完結率、等）等

福岡県における入院医療の自己完結率（平成24年度NDBデータ：一般病床入院 7：1、10：1）



出典：平成25年度厚生労働科学研究補助金（厚生労働科学特別研究事業）・今後の医療需要を踏まえた医療機能の分化・連携を促すための地域医療ビジョン策定に向けて把握すべきデータやその活用方法に関する研究（H25-特別-指定-007）（研究代表者：松田晋哉）

久留米医療圏におけるDPC対象病院の診療実績（平成23年度・24年度厚生労働省データ：MDC別救急搬送患者）

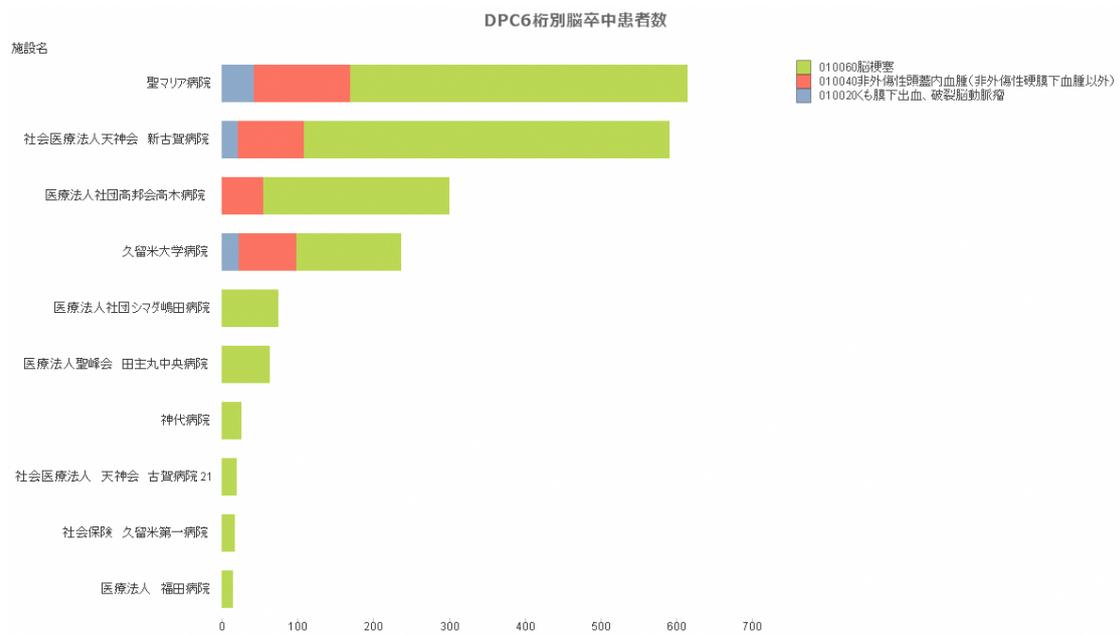


二次医療圏	△	搬送者数	覚知から現場到着	現場到着から収容	覚知から収容
		207,498	7.7	21.0	28.2
4001福岡・糸島		60,331	7.2	19.9	26.8
4002粕屋		9,402	8.0	21.6	29.2
4003宗像		5,012	8.1	21.8	29.3
4004筑紫		14,564	7.5	20.5	27.7
4005朝倉		3,710	9.2	24.3	31.8
4006久留米		15,898	7.5	17.9	25.1
4007八女・筑後		5,404	7.0	21.2	27.1
4008有明		9,274	7.3	21.9	28.5
4009飯塚		8,690	8.4	21.6	29.6
4010直方・鞍手		5,570	7.4	25.1	31.7
4011田川		7,722	8.9	25.9	32.8
4012北九州		53,655	8.0	21.3	28.9
4013京築		8,266	7.7	23.0	29.6

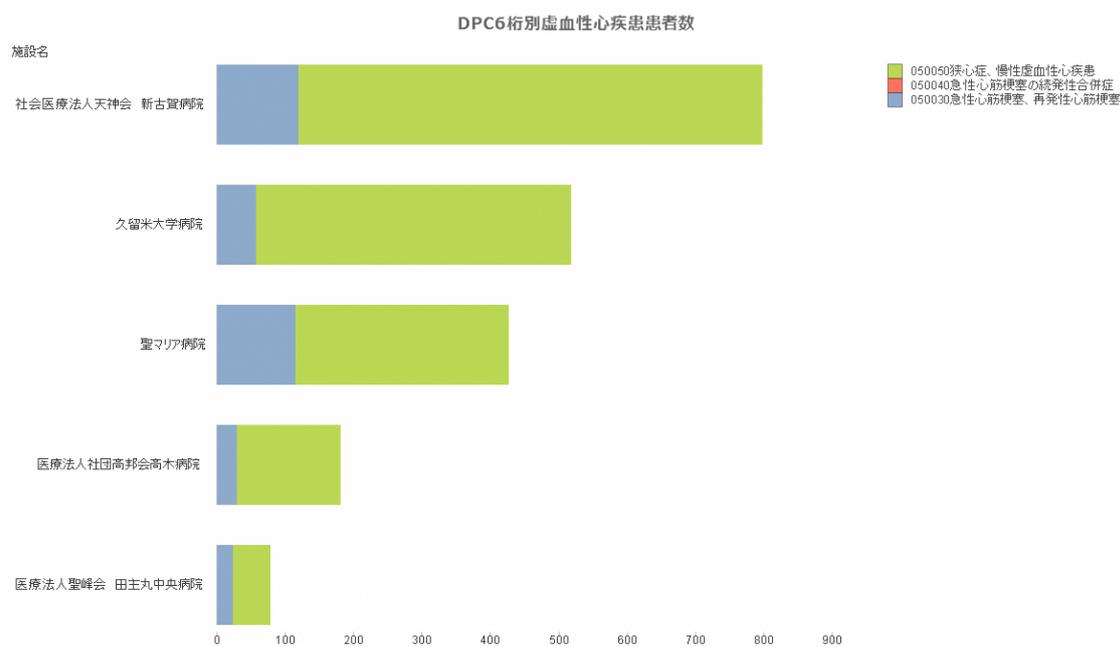
医療圏別にみた平均搬送時間（分）（平成23年度 消防庁データ：全体）

出典：平成25年度厚生労働科学研究補助金（厚生労働科学特別研究事業）・今後の医療需要を踏まえた医療機能の分化・連携を促すための地域医療ビジョン策定に向けて把握すべきデータやその活用方法に関する研究（H25-特別-指定-007）（研究代表者：松田晋哉）

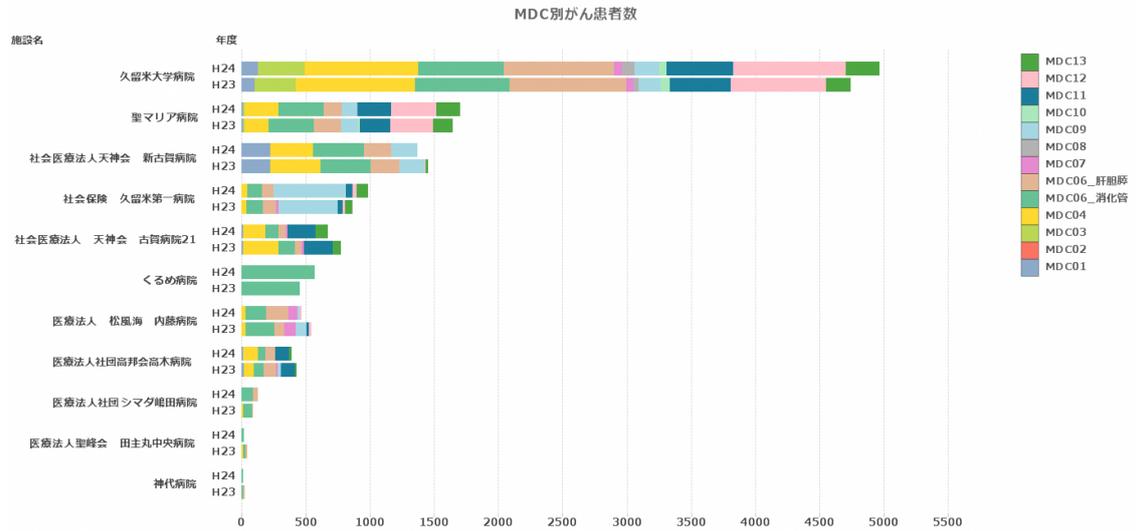
久留米医療圏におけるDPC対象病院の診療実績（平成24年度厚生労働省データ：脳血管障害患者）



久留米医療圏におけるDPC対象病院の診療実績（平成23年度・24年度厚生労働省データ：虚血性心疾患患者）



久留米医療圏におけるDPC対象病院の診療実績（平成23年度・24年度厚生労働省データ：MDC別がん患者）



【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

5疾病の内、がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病と救急医療を中心として高度急性期、急性期医療の提供を維持していく。

地域の医療機関との連携を密にして紹介・逆紹介を増やし患者のすみわけを行う。

② 今後持つべき病床機能

現状の病床機能を維持する。

③ その他見直すべき点

特になし

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度?)
高度急性期	28	→	24
急性期	214		218
回復期	0		0
慢性期	0		0
(合計)	242		242

① その他の数値目標について

<u>医療提供に関する項目</u>	
・ 病床稼働率	95.0%
・ 手術室稼働率	55.0%
・ 紹介率	75.0%
・ 逆紹介率	100%
<u>経営に関する項目*</u>	
・ 人件費率	40.5%
・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合	0.4%
その他	